

児童・生徒の学び、心身のケア、安心安全な教育環境を保障するために 少人数学級の実施を求める意見書

新型コロナウイルス感染症から、児童・生徒および教職員の「命と健康」を守っていくことは重要な課題です。

3か月間という異例の長さの休校で学習の遅れはもちろんのこと、子どもたちは、かつてない不安とストレスをため込んでいます。学びを進めるうえで重要なことの一つとして、子どもの心身のケアをしっかりと行うことは必須です。

全国知事会、全国市長会、全国町村会の地方3団体は7月3日、萩生田光一文部科学大臣に少人数学級を求める緊急提言を提出しました。

「提言」は、「公立小・中学校の普通教室の平均面積は64平方メートルであり、現在の40人学級では感染症予防のため児童・生徒間の十分な距離を確保することが困難」だとして、「少人数編成を可能とする教員の確保」を求めています。さらに、「今後予想される感染症の再拡大時においても子どもの学びを保障し」「学校休業等の緊急時においてもオンライン学習ができる環境を充実させ、最適な学びを実現する」ために、「少人数による、きめ細やかな指導体制が必要である」として、教員の確保やICT教育人材の配置、財政措置の拡充などを強く要望しています。

政府の「骨太方針2020」も、「少人数によるきめ細かな指導体制の計画的な整備」について「関係者間で丁寧に検討すること」（7月17日閣議決定）を求め、来年度予算編成にかかわる重要な局面となっています。

クラスの人数を半分にした6月の分散登校中は、密にならなかつただけでなく、「一人ひとりの声がよく聞こえて静かに学習が進められた。ノートを丁寧に見てあげられた」「子どもたちの本音を聞いて心のケアに努めながら、学習を進めていける」などの経験を教師も子どもたちも実感しました。

よって政府においては、子どもたちを感染症から守り、仲間との共同の学びと豊かな学校生活が送れるように、今こそ少人数学級実現のため尽力するよう、強く求めるものです。

以上、地方自治法99条により意見書を提出します。

令和2年9月15日

埼玉県伊奈町議会

〈提出先〉

内閣総理大臣 財務大臣 文部科学大臣